

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820008

研究課題名(和文)『ブラフマーストラ・バースカラ註解』第一篇訳註研究

研究課題名(英文) An Annotated Translation of the First Adhyaya of Bhaskara's Brahmasutrabhasya

研究代表者

加藤 隆宏 (Kato, Takahiro)

東京大学・人文社会系研究科・助教

研究者番号：80637934

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は10世紀頃のインドで活躍したバースカラの主著『ブラフマーストラ・バースカラ註解』の第一篇の訳註研究である。

本研究では、報告者自身の手による新しい校訂批判版に基づき、これまでいかなる言語にも翻訳されてこなかった本書の英語による訳註を作成した。また、詳細な訳註研究に基づいて、バースカラの学説を同世代の有名な思想家シャンカラの学説と比較し、正統派ヴェーダーンタ学説の解明を行った。

また、期間中に行った2回のインド現地調査では、これまで存在が知られていなかった全く新しい写本を2本発見入手するなど、大きな成果をあげることができた。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to complete an annotated translation of the first Adhyaya of Bhaskara's Brahmasutrabhasya. An annotated translation, which is the world first translation into non-Indian language, has been prepared based on my own new critical edition.

Besides completing an annotated translation, some other results brought in the course of this project have been published as journal articles. They gave new perspective on Bhaskara's Vedanta philosophy especially in comparison with that of his rival thinker Sankara.

Through research visits twice in local libraries and temples (Jaipur, Rajasthan and Thrissur, Kerala), I could obtain two newly found manuscripts of Bhaskara's Brahmasutrabhasya. Variants and other information recorded in these manuscripts would update my critical edition.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学(中国哲学・印度哲学・仏教学)

キーワード：インド哲学 ヴェーダーンタ バースカラ サンスクリット写本 ブラフマーストラ

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究でとりあげる『ブラフマストラ・バースカラ註解』は、インド三大聖典の一つに数えられる『ブラフマストラ』を註解したもので、10世紀頃のインドに現れた哲人バースカラの手によるものである。聖典ウパニシャッドの流れを汲む『ブラフマストラ』はインド思想研究史のなかでも最初期から注目されてきた文献で、本邦のインド学の草分けである中村元博士も、彼の学位論文のテーマとしてこの『ブラフマストラ』を扱っている。ごく簡潔な文言のみによって構成されるこの『ブラフマストラ』は、簡潔さゆえに後の学匠たちの議論を誘うこととなる。後世の思想家達は聖典に記された言葉の意味やその解釈を巡って活発な論争を繰り広げ、議論の顛末を『註解書』に認めて後に残した。その中で最も有名なものは大哲人シャンカラの手による『註解書』で、これまでの『ブラフマストラ』研究と言えば、その大半がシャンカラの残した『ブラフマストラ・シャンカラ註解』研究であったと言っても過言ではないほどである。しかしながら、インド思想史という大きな流れから見た場合、シャンカラの解釈は当時の学界では革新的であり、むしろ異端として捉えられていた可能性が高く、彼の解釈のみをもってして聖典の真意を掴みとることはできないであろうとは先の中村博士もその研究の中で指摘される通りである。

以上の観点から、聖典『ブラフマストラ』への註釈を著した他の註釈者（ラーマーヌジャ、マドヴァなど）への注目が高まり、かれらの著した『ブラフマストラ註解』のサンスクリット語テキストの編集出版ならびに各国語による翻訳が研究者によって手がけられ、バースカラの『註解書』のサンスクリット原典もインド人学者の手によって1915年に編集出版された。1915年の原典出版は他の『註釈書』の原典出版に比べて早い段階に

なされたといつて良い。しかしながら、この版本の不備から各国語への翻訳研究が遅れ、それに基づいた思想研究が生まれにくい結果となってしまった。

この状況に鑑み、当時シカゴ大学の故ファン・バイトネン教授（以下vB）は1961年にサンスクリット校訂版と英語訳の出版を公表するが、何らかの理由でその資料は出版されず、資料そのものの行方も分からなくなってしまった。40年以上が経過してまず発見されたのが、vBの手によるサンスクリット語原典の校訂版で、この資料を入手した報告者は2006年4月より、資料の公開と新たな校訂批判版テキスト編集出版を目的とした研究プロジェクトに着手した。プロジェクトの第一の目的は、vBがもつづいたサンスクリット写本を再照合して遺稿を有意義な形で再生することであったが、調べを進めるうちに、vBが存在を確認できていなかった新たな写本9本（うち4本は断片）を再確認し、vBが用いた主要写本の再照合データ、新たに確認された写本の異読情報、さらには初版のデータを漏れなく収録した全く新しい校訂批判テキストを作成するに至った。このプロジェクトの成果の一部は、2011年2月に学位論文“The First Two Chapters of Bhāskara’s Śāṅkarakamīmāṃsābhāṣya – Critically edited with an Introduction, Notes and an Appendix”としてドイツ・マルティンルター大学に提出された。

また、2009年と2010年に行った写本調査で、新たに2本の写本の存在が確認された。これらの写本はインド・ジャイプル市にあるシティパレスの図書館所蔵で、図書館の閲覧室でのみ閲覧可能であるため、これまで複写の許可を得るに至っていない。二度の閲覧と部分的照合により判明したことは、この写本2本のうち、とりわけ1本（Jai1写本）が非常に古い伝承を保持している可能性が高く、校訂テキストをより信頼度の高いものにするためにも、この写本の異読情報を参照する

ことは必要不可欠であり、本研究の重要課題の一つであると言える。

校訂テキストについての研究を続ける傍ら、報告者は内外の研究者とコンタクトを取り、失われた vB の英語訳原稿の行方を捜索し続けた。2009 年 7 月、インド・ラジャスタン州ジャイプル市で開かれた国際サンスクリット学会において、報告者はハーバード大学教授フランシス・クルーニー博士と知己を得た。クルーニー教授は vB が長年教鞭を執ったシカゴ大学の出身ということもあり、資料発見の手がかりを得ようと資料について尋ねてみたところ、偶然にも彼の手許にそのオリジナルがあるという情報を得た。その資料は vB からその後任であったディモック教授へと引き継がれ、当時学生だったクルーニー教授が所有することになったという。そして 2009 年 9 月、資料がクルーニー教授から報告者へと委託されることとなった。

2. 研究の目的

報告者が 2006 年 4 月より手がけるプロジェクト「バースカラ」はバースカラの手による『ブラフマストラ註解』の校訂批判テキストと訳註研究によって完成する。これまでの研究では、新しい校訂批判テキストの全体を完成させており、本研究課題で訳註研究部分に着手することとなる。2 年間の研究期間内で全四篇 (adhyāya) からなるテキストの約 3 割にあたる第一篇の訳註を完成させることを目的とする。また、第一篇の校訂テキスト部分について、インド・ジャイプル市に滞在し、所定の期間で該当部分の写本の異読情報をすべて確認するという作業も行う。写本の情報に加え、vB の遺稿も参照しつつ、翻訳と註記作業を行う。

3. 研究の方法

本研究の方法は (1) vB の遺稿の保存とデジタルデータ化 (2) 該当テキストと Jai1 写本

との照合 (3) 英語による翻訳と註記という三つの部分に分かれる。

(1) まず、研究の第一段階として vB の遺した未公開の翻訳資料の保存を行う。未公開の新資料は 414 ページからなり、タイプライターによる本文に手書きの加筆修正が施されている。資料の一部には経年による破損が見られるため、まずはこの資料をしかるべく保存することから始める。vB 本人による修正部分が一目瞭然でわかるようカラーコピー機による複写に加え、高解像度のデジタルスキャンでの保存を行う。スキャンを施した後、資料をデジタルデータ化してこれをより使いやすい形式に変換する。

(2) 上述の通り、本研究にはインド・ジャイプル市シティパレス内でのみ閲覧可能な Jai1 写本の照合が必要不可欠となる。この写本を照合するため、インドに滞在して現地図書館での照合作業を行う。また、Jai1 を所蔵するジャイプル市シティパレス図書館には、Jai1 の他にもう一本『ブラフマストラ・バースカラ註解』の写本 (Jai2) の所蔵が確認されている。サンプリング調査によれば、この写本の重要度と信頼度はそれほど高くないものの、複写の許可などが下りれば複写を持ち帰り、帰国後の研究に役立てる予定である。

(3) 本研究の中核をなす大きな部分は、報告者本人が作成した校訂テキストにもとづく新しい英訳・訳註研究である。もともと、『ブラフマストラ・バースカラ註解』にはごく一部の部分訳 (日本語訳) を除いて翻訳がなく、このこともバースカラ研究が立ち遅れる要因の一つであった。今回新たに所在が確認された vB の遺稿も貴重な資料として有用ではあるが、前段階的な調査によれば内容についての不備が多々見られるため、すべて鵜呑みにするわけにはいかない。その不備とは、第一に、vB の用いている原典テキスト自体が不完全なものであり、これにもとづく翻

訳も不完全であるという点があげられる。また、vB の英語訳には明らかに原文と異なる箇所が多く見られる。このことは、彼の遺稿が未完成なものであることを物語るものである。さらに、この資料には編集上の明らかなミスや、訳者が明らかな誤訳を施している箇所も多く見られる。いずれにせよ、半世紀程前の不完全・未完成な研究成果は今日の学術的な水準を満たすものではなく、改善の余地が多いにあると認められる。従って、本研究では、vB の英語訳も活用するが、あくまで参考程度にとどめ、新たな写本情報によって大幅に改善された原典テキストに基づいた全く新しい英語訳および註記を作成する。

4. 研究成果

平成 24 年度にはまず、故ファン・バイトネン教授の遺した未公開の翻訳資料の保存を行い、資料のデジタルデータ化を完了した。これにより、未公開の貴重な資料が利用しやすい形式で保存された。これらは近い将来の公開に向けて準備中である。

また、平成 25 年 2 月に行った現地調査では、これまで複写などが許されなかった Jail 写本の一部複写が許可され、これを含む写本情報を多く持ち帰ることができた。Jail 写本については、本研究課題で扱う該当箇所を中心に照合作業を行い、その情報が校訂テキストおよび訳註に反映された。また、この調査ではこの他に、本研究で扱う『ブラフマストラ・バースカラ註解』の要点をまとめた『バッタ・バースカラ・サーラ』というタイトルの新たな写本をみつけ、その一部を複写して持ち帰ることができた。

『バースカラ註解』写本については、その後も現地との連絡を続け、平成 25 年度にはこれまで存在が知られていなかった『ブラフマストラ・バースカラ註解』の全く新しい写本が 2 本見つかり、平成 26 年 1 月に行った現地調査でこれらの資料を持ち帰った。こ

れらの資料は本研究課題申請時には予想をしていなかった収穫であり、また、発見入手の時期が研究期間終了にこれらすべての成果を本研究課題に反映させることはできなかったが、これらの資料については今後内容の検討などを進めていきたい。

英語による訳註研究は、訳語の選定などの作業を経て、当初予定していた第一篇全体の試訳版を完成することができた。平成 26 年 3 月、マルティンルター大学の W. Slaje 教授を交えて行った「バースカラワークショップ」では、7 日間にわたって集中的にテキストの読みや翻訳を確認し、訳註を大幅に改善することができた。今回行った訳註研究本体については、ブラッシュアップを行った後、学術誌などにおいて発表する予定である。

本研究では、中心課題である訳註研究を進める過程で所在が明らかとなったいくつかの問題を取り上げ、その考察結果を学術論文①、③、④としてまとめた。論文③では『ブラフマストラ註解』に見られる異読をめぐる議論を取り上げ、シャンカラおよびその弟子たちが「伝統的」に伝えてきたストラの読みが必ずしも伝統的ではないことを示した。これまでヴェーダーンタを代表するとみなされてきたシャンカラ派はむしろ伝統説から外れた説を展開している可能性があることを報告者はすでに度々指摘してきたが、本論文では文献的にそれを実証することができた。

『バガヴァッドギーター』は、本研究課題で取り上げる『ブラフマストラ』と並んでヴェーダーンタ派において重要視される聖典の一つである。先行研究の示すところによれば、バースカラが註釈した『ギーター』は流布版およびカシュミール版の原型であった可能性もあり、バースカラの引用した『ギーター』は彼の活躍した年代や地域について考える上で貴重な資料である。学術論文①ではバースカラの『ギーター註解』及び『ブラ

フマストラ註解』に引用された『ギター』の章句、特に諸写本に見られる異読の分析を手掛かりに、テキスト伝承という観点からカシュミール版ギターの成立事情について考察した。現在広く読まれている流布版の『バガヴァッドギター』はシャンカラによる『ギター』註釈に多く依存しており、これらすべてが必ずしも正統説ではないということについて、テキスト伝承などの観点から指摘することができた。この考察においても、シャンカラおよびその弟子たちによって形成されたシャンカラ派の学説がインドの思想界において大きな影響をもち、その影響力のために有力とみなされてきたが、彼らの学説を正統とみなすインド思想上の一般的な理解をより専門的な見地から検証しなおす必要があることを示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

① Takahiro Kato, A Note on the Kashmirian Recension of the *Bhagavadgītā*: *Gītā* Passages quoted in Bhāskara's *Gītābhāṣya* and *Brahmasūtrabhāṣya*, *Journal of Indian and Buddhist Studies* 62/3, 査読有, 2014, pp. 80-86.

② Takahiro Kato, Bhāskara mentioned in the *Prameyakamalamārtanḍa*, 奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集, 査読有, 2014, pp. 286-298.

③ Takahiro Kato, A study on BS II.3.50: *ābhasā eva ca*, *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Sambhāṣā* 30, 査読有, 2013, pp. 35-53.

④ Takahiro Kato, Would rather be a jackal, *Prof. S. P. Sharma Felicitation Volume*, 査読有, 掲載確定

⑤ Takahiro Kato, Bhāskara's Concept of *Jñānakarmasamuccaya*, *Indologica Taurinensia*,

査読有, 掲載確定

[学会発表] (計 3 件)

① 加藤隆宏 「カシュミール版ギターに関する覚書」 日本印度学仏教学会第 64 回学術大会, 2013 年 8 月 31 日, 島根県民会館, 島根県松江市.

② Takahiro Kato, "Would rather be a jackal," The Second Cross-Strait Conference on Sanskrit and Buddhist Studies, 2012 年 11 月 9 日, 国立政治大学, 台湾.

③ 加藤隆宏 「『ブラフマストラ・バースカラ註解』校訂研究」 東京大学インド哲学仏教学研究室第 188 回研究例会, 2012 年 9 月 29 日, 東京大学.

[図書] (計 1 件)

① Takahiro Kato, The First Two Chapters of Bhāskara's *Śārīrakamīmāṃsābhāṣya*: Critically Edited with an Introduction, Notes and an Appendix, ULB Sachsen-Anhalt, 2013, 663. <http://nbn-resolving.de/urn:nbn:de:gbv:3:4-9304>

[その他]

テキストデータベース

Maṇḍanamiśra's Vibhramaviveka, Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages and related Indological materials from Central and Southeast Asia, 2012.

http://gretil.sub.uni-goettingen.de/gretil/1_sanskrit/6_sastra/3_phil/vedanta/mndvivipu.htm

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 隆宏 (KATO, Takahiro)

東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号: 80637934